

令和3年度山本地域振興局社長会議の概要

令和4年2月22日（火）
午後1時30分～3時30分
（オンライン開催）

1 開催趣旨

現在策定中である県の「新秋田元気創造プラン」では、「選択・集中プロジェクト」の一つに「デジタル化の推進」を掲げ、重点的に推進することとしていることから、今回は、企業の継続的な成長のために不可欠となるDXへの取組とデジタル人材の育成・確保をテーマとして、外部講師の講演と県のデジタル化支援施策の説明の後、参加4企業との意見交換を行った。

2 講演

講師：みらい株式会社 シニアマネージャー 藤井健史 氏
演題：DXの推進とデジタル人材の育成

3 県事業説明

説明者：県デジタルイノベーション戦略室 主査 中嶋結也
議題：令和4年度当初予算(案)における県内事業者のデジタル化支援施策

4 主な意見の内容

- 全ては業務に当たる従業員のため、業務の負担が見える化することから始めて、ペーパーレス化とスマホによる業務管理の導入を行い、どのような効果が生まれるかを一つひとつ検証しながら進めている。
DXは、進むも止まるもトップの一言で決まるし、経営者の質と意識が問われる。
- 業界全体の流れもあり、必要に迫られて始めている状況にあるが、3Dの建築図面を顧客に提供して好評を得ているなど、その効果に手応えはある。
DXについては、ある一定以上の年齢層はこれまでのやり方にこだわりネガティブな反応を示す者が多い一方で、若い世代は興味を持ち、ポジティブな反応を示している。
やはり、DXを進めるには、トップの強い意識とメッセージが必要である。
- 顧客からの紙ベースの依頼書などをオンプレミスのシステムに手入力しているが、データ化による省力化やコスト削減を推進するためには、周りの理解と協力も必要である。
また、クラウドは融通が効かない面もあり、使い勝手の悪さを割り切って、クラウドに舵を切ることの難しさを感じている。

- 従業員が目視で行っていた確認をセンサーによる監視に変えれば、省力化だけでなく、リスクヘッジの向上も期待できる。
- デジタル技術は大きな変化を生み出す。DXに取り組まないことは、極論を言えば従業員と顧客を不幸にしてしまう可能性になり得る。今がその分岐点である。
- これからは、職人と呼ばれる人を育てるのは難しく、職人が経験により担っていた部分をデジタル化していく必要がある。
ある酒造会社では、従来職人の経験と勘に頼っていた工程にAIを活用し、その技術を業界全体の未来のため同業者にシェアしている事例もある。
- クラウドサービスは安く使え、資金は1万円もあれば様々な月額サービスを使えるし、サービス導入の効果は、約1か月で出ることもある。
また、多くのサービスで30日程度のトライアル期間がある。使って良ければ月額プランに移行するというように、お試しから始めてみるとよい。
- いきなり変革や新たな価値創造にチャレンジするのは難しいので、まずは、アナログの作業・プロセスをデジタルに置き換えて、生産性を向上させるといった小さなところから始めてみるとよい。
既にある程度DXを進めている企業には更なるヒントを、入口に立っている企業には導入のモチベーションづくりを期待したい。

5 会議の成果

この社長会議を通して、既に一定程度DXを導入している企業には更に推進するためのヒントを、入口に立っている企業にはDX導入のモチベーションづくりになったのではないかと考えており、引き続き管内企業の状況に応じた情報提供や意見聴取を行っていききたい。